ＣＩインサイトレポート
－ 肥満症 2026 －

【 目次見本 】

2026.9

株式会社社会情報サービス
Social Survey Research Information Co., Ltd

§ レポートTOPICs

調査対象疾患	肥満症	
調査ポイント・topics	ウゴービ/ゼップバウンド	➢ 薬剤別処方状況、製品評価について分析・解明 → 使い分けのポイントは？実際の体重減少率、副作用の出現率は？ ⇒ 2剤の処方実態と今後の処方動向について徹底解明・予測！
	オルホルグリプロン	➢ 治療薬としてのポテンシャルについて分析・評価 ➢ 上市後の処方意向、処方対象（注射剤との使い分け）について分析・予測 ⇒ 上市後の処方動向について徹底予測！ ＜国内肥満症治療薬市場の成長ドライバーになり得るか？＞
	自由診療	➢ 自由診療での処方状況について分析・解明 ➢ 処方対象、処方薬剤について分析・解明 ⇒ 自由診療での処方実態と今後の処方動向について徹底解明・予測！ ＜自由診療での処方は更に加速するか？＞
	新規薬剤	➢ 新規薬剤のポテンシャル・処方動向について徹底分析・予測 ＜新規経口剤、注射剤・・・有望視される薬剤は？＞
	国内肥満症治療/治療薬市場	➢ 国内肥満症治療の実態について分析・解明 → 最適使用推進ガイドラインによる問題は？臨床現場の実態・問題は？ ⇒ 国内肥満症治療/治療薬市場の将来動向について徹底予測！ ＜施設要件の緩和の可能性は？市場拡大の方向性は？＞

■主要調査対象

※太字は調査重点対象

対象医師			・肥満症 TOP KOL ・肥満症 臨床医 { ウゴービ・ゼップバウンド保険診療可能施設所属医師 ウゴービ・ゼップバウンド保険診療不可施設所属医師 }	
対象薬剤	既存薬	注射剤	**GLP-1アナログ**	**ウゴービ（ｾﾏｸﾞﾙﾁﾄﾞ）**
			GIP/GLP-1	**ゼップバウンド（ﾁﾙｾﾞﾊﾟﾁﾄﾞ）**
	新規薬剤（開発薬）	経口剤	**非ペプチドGLP-1**	**LY3502970　オルホルグリプロン**
			GLP-1アナログ	NN9932　オーラル セマグルチド
		注射剤	GLP-1アナログ/アミリンアナログ	NN9838　カグリセマ
			GLP-1/GCG	BI 456906　スルボデュチド
			GIP/GLP-1/GCG（トリプルG）	LY3437943　レタトルチド
			GIPR抗体GLP-1	AMG133　マリタイド
		注射剤/経口剤	GLP-1/アミリン	NN9490/9487　アミクレチン

§ レポートPart別概要

調査種類	Part Ⅰ　データ分析編	Part Ⅱ　定量調査編	Part Ⅲ　KOLヒアリング編
調査手法	（オープンソースを基にした） データ分析	インターネットによるWEB調査	デプスインタビュー
調査対象医師／ 対象医師数	–	肥満症 臨床医　計　196名 保険診療可能施設所属医師　104名 保険診療不可施設所属医師　92名 内 自由診療実施医師　36名	肥満症 TOP KOL　3名 【関連学会　役員】
調査対象診療科 <施設種類>	–	糖尿病・内分泌内科、循環器内科、 一般内科 <HP/GP>	糖尿病・内分泌内科 <HP>
調査内容	**<既存薬>** 治療薬一覧、臨床試験、関連論文 **<開発薬（国内/海外）>** プロファイル、作用機序・特性、 臨床試験、関連文献 **<その他>** 注目企業動向、関連学会情報 **<別添>** 抄録集（関連論文）	**<患者動向>** ● BMI/併存疾患別患者状況 **[保険診療可能施設所属医師]** ● ウゴービ/ゼップバウンド処方状況 ● ウゴービ/ゼップバウンド体重減少率 ● オルホルグリプロン上処方意向 ● 肥満症治療薬処方動向予測 **[保険診療不可施設所属医師]** ● 保険診療可能施設への紹介患者状況 ● オルホルグリプロン認知状況・紹介意向 ● 自由診療処方状況 ● 自由診療今後の処方動向予測 **<新規薬剤（開発薬）処方動向予測>** ● 薬剤別処方意向・期待度/処方ターゲット **<新薬開発ニーズ>** ● 新規薬剤に対して重要視するエビデンス 等	**<ウゴービ/ゼップバウンド>** ● 処方状況、製品評価 ● 適応拡大の影響度（MASH、SAS）＊ ● 薬剤別今後の処方動向予測＊ **<オルホルグリプロン>** ● 製品評価 ● 処方対象（注射剤との使い分け） ● 上市後処方動向予測＊ **<既存治療のアンメットニーズ>** ● 治療ポイント/健康障害別アンメットニーズ＊ **<新規薬剤（開発薬）ポテンシャル分析>** ● 薬剤別ポテンシャル分析 ◆ 新薬開発の方向性 ◆ 国内肥満症治療/治療薬市場の方向性＊ 等 ＊ **国内全体の実態/将来動向についての検証/予測を含む**
調査実施時期	2026年 7月 ～ 8月		
体裁／頁数	Part Ⅰ・・・ＰＰＴ（ or ＥＸＣＥＬ）、Part Ⅱ＆Ⅲ・・・ＰＰＴ　／　Ａ４　計約300ページ（報告書本編のみ、別添は含まない）		
レポート価格	レポート本編　フルセット＜３パート＞　２１０万円（税別） ※オプション　ロウデータ　５０万円（税別） ロウデータ ＋ ﾀｰｹﾞｯﾄﾏｯﾁﾝｸﾞ　６０万円（税別）		

＜ Part Ⅰ データ分析編　目 次 ＞

調査概要	3
■ 疾患概要	4
Ⅰ. 既存品	8
Ⅰ-1.プロファイル	9
Ⅰ-2.作用機序・特性	11
Ⅰ-3.薬価	14
Ⅰ-4.臨床試験（UMIN）	16
Ⅰ-5.臨床試験（jRCT）	18
Ⅱ. 開発品	20
Ⅱ-1.プロファイル	21
Ⅱ-2.作用機序・特性	29
Ⅱ-3.臨床試験（jRCT）	34
Ⅲ. 関連企業動向	40
Ⅳ. 学会情報	48
Ⅳ-1.日本肥満学会	49
Ⅳ-2.日本糖尿病学会	54
Ⅳ-3.日本糖尿病合併症学会	55
Ⅳ-4.日本内分泌学会	56
Ⅳ-5.日本動脈硬化学会	58
Ⅴ. 関連文献	59
Ⅴ-1-1.既存品・製品別	60
Ⅴ-1-2. 既存品・複数	64
Ⅴ-2.既存品+開発品	66

＜ Part Ⅱ 定量調査 要約編　目 次 ＞

調査概要	3
回答者プロフィール	4
§.Executive Summary	5
§.Summary	16
1) 診療状況	17
2) 治療状況	21
3) 肥満症治療薬処方動向(保険診療可能施設所属医)	30
4) 肥満症治療薬認知状況・処方動向(保険診療不可施設所属医)	51
5) 肥満症治療薬自由診療処方動向(保険診療不可施設所属医)	63
6) 開発薬認知状況・処方動向	73
7) 既存治療の満足度・アンメットニーズ	78
8) 新薬開発ニーズ	81

＜ Part Ⅱ 定量調査 結果編　目 次 ＞

調査概要	3
回答者プロフィール	4
§ 調査結果	5
1) 診療状況	6
1-1.診療患者数	7
1-2.併存疾患状況	8
1-3.薬物療法実施状況(2型糖尿病有無別)	14
2) 治療状況	15
2-1.治療目標	16
2-2.薬剤別処方状況(2型糖尿病有無別)	17
3) 肥満症治療薬処方動向(保険診療可能施設所属医)	29
3-1.薬剤別他施設からの紹介患者状況	30
3-2.薬剤別処方状況	32
3-3.薬剤別処方中止状況	37
3-4.薬剤別体重減少率	41
3-5.薬剤別問題点	43
3-6.今後の他施設からの紹介患者動向予測	45
3-7.オルホルグリプロン認知状況	46
3-8.オルホルグリプロン処方意向	47
3-9.薬剤別処方動向予測	49
3-10.今後の肥満症治療薬処方動向予測	52
4) 肥満症治療薬認知状況・処方動向 (保険診療不可施設所属医)	53
4-1.薬剤別認知状況	54
4-2.保険診療可能施設への紹介状況	55
4-3.保険診療可能施設への非紹介理由	59
4-4.オルホルグリプロン認知状況	60
4-5.保険診療可能施設への紹介意向の変化動向	61
4-6.薬剤別処方意向(保険診療での処方が可能になった場合)	62
5) 肥満症治療薬自由診療処方動向 (保険診療不可施設所属医)	67
5-1.処方経験	68
5-2.薬剤別処方状況(対象:自由診療での処方経験 有 医師)	69
5-3.今後の処方動向予測(対象:自由診療での処方経験 有 医師)	74
5-4.今後の処方動向・予定(対象:自由診療での処方経験 無 医師)	81
6) 開発薬認知状況・処方動向	88
6-1.薬剤別認知状況	89
6-2.薬剤別処方意向	93
7) 既存治療の満足度・アンメットニーズ	98
7-1.BMI別既存治療の満足度(満足度が低いBMI)	99
7-2.既存治療のアンメットニーズ	100
8) 新薬開発ニーズ	102
8-1.新規肥満症治療薬に対する要望/重視内容	103
8-2.新規肥満症治療薬に対して重視するエビデンス	104

＜ Part Ⅲ KOLヒアリング編　目 次 ＞

調査概要	3
Summary	6
1. ウゴービ・ゼップバウンド処方動向	19
2. 新規薬剤オルホルグリプロン製品評価・処方動向	28
3. 既存治療のアンメットニーズ	33
4. 新規薬剤（開発薬）ポテンシャル分析	36
5. 新薬開発の方向性	41
6. 国内肥満症治療薬処方動向予測	44
7. 国内肥満症治療の方向性	47